

居住環境と村づくりのあり方に関する研究（序報）

—秋田県東成瀬村における全戸アンケート調査—

泉 澄佳・長谷川 武司・春日 克憲*¹・矢嶋 裕紀*¹

Rural Development under Consideration of Local residents' Opinion, of Thier Living environments

Sumika IZUMI, Takeshi HASEGAWA, Katsunori KASUGA, and Yuki YASHIMA

(1998年11月30日受理)

Usually rural and urban planning by municipalities have been done with a few commennts local residents' opinion. Especially, rural planning have to be made in consideration of theirs opinion. Because rural municipalities have some problems those are depopulation, lacking infrastructures, and so on.

Then we devised a visually oriented questionnaire to survey rural planning which local residents truly desire to own.

1. はじめに

なわち、地理的条件で分類すると東成瀬村は典型的

1. 1 研究の目的

本研究は1980年代以降強く意識されてきた、生活者にとって豊かな住環境のあり方を考えることを念頭に置き、秋田県東成瀬村を対象地として人々の気質や気風、気候や自然条件、歴史や地域のシンボル、地域活動など広範囲の内容を含む調査によって村づくりの方向性を探るものである。具体的には、①居住の意識、②施設への関心や意識、③産業・職業に対する意識、④生活環境に対する意識、⑤教育に対する意識、の5項目を扱うことにする。

1. 2 東成瀬村の概要

東成瀬村は秋田県南東部に位置する村である（図-1）。村の東側は焼石岳をはじめ蟻巣山-三界山-大森山-東山-桑原岳-大薊山と続き、秋田・岩手・宮城の県境に位置する栗駒山へ至る1100乃至1500 mクラスの山々がある。一方、栗駒山の西方には須金岳-軍沢岳を経て神室山地へ至る1000 m以上の山々が村の南側に位置し、西側には、600 m乃至1000 m位の低山帯があって北西方向へ流れる成瀬川が唯一、横手盆地に向かう開口部を形成している。す

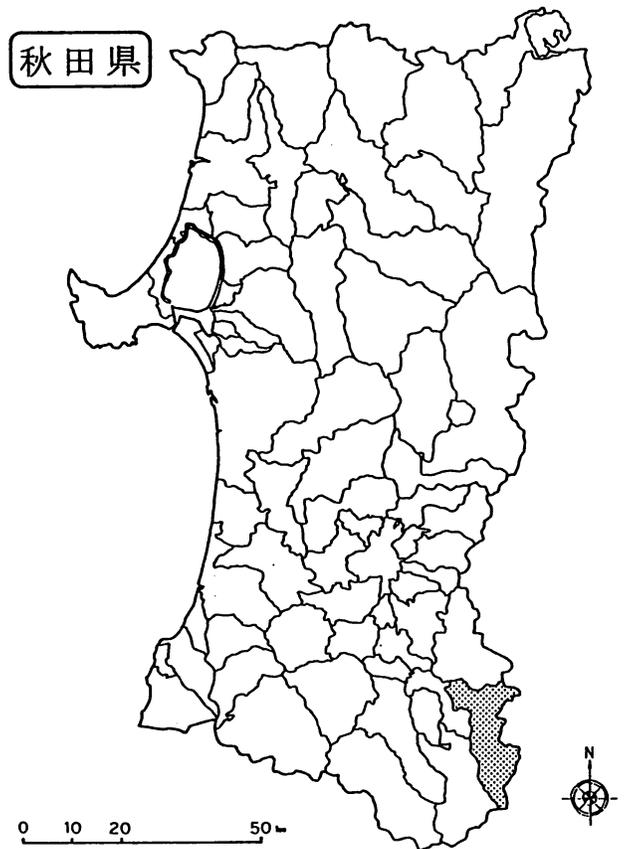


図-1. 秋田県における東成瀬村の位置

* 秋田高専学生、環境都市工学科5年生

な山間村であり、地形は冬期季節風に対し風向斜面の風下側にあたるため秋田県内でも有数の豪雪地帯となっている。

平成7年度の国勢調査¹⁾によると東成瀬村の世帯数は885戸、人口は3568人であるが、平成10年9月1日現在秋田県の人口と世帯（推計）速報²⁾では、世帯数は変わらないものの人口は3439人へと減少した。大正9年以降の統計³⁾で東成瀬村が6000人を越えた昭和22年から30年に至る期間の経過後、ここでは一貫した人口流出が続き、今日に至っている。平成7年度時点における65歳以上の老年人口は約26%、14歳未満の年少人口は約15%、残りが生産年齢人口であるがその平均年齢は約42歳と決して若くない。

東成瀬村は平成元年度村政100周年の記念事業を行うとともに、ジュネス栗駒スキーリゾート開発をはじめとする各種施設の整備に着手した。その目的とするところは、村民の雇用を確保することで人口流出に歯止めをかけ、更に村に対する誇りや帰属意識の高揚を図ることにあつた。実際のところ、このねらいはかなりの程度成功を取め、行政担当者が十分手応えを感じたものであつたという。また、生涯学習の活動も岩井川コミュニティセンターで盛んに行われてきた。しかし、前述するように人口の減少傾向に対する有効な歯止めは依然としてなく、新たなインフラ整備である成瀬ダム建設に期待をつないでいる状況がある³⁾。

2. 調査の企画

アンケート調査では村民の協力が不可欠である。調査に対し「町からやってきた人間に村のことがわかるか」のような抵抗感ではなく、話してみようという信頼感を確立しなければならない。このため調査の予備的段階として、①村の雰囲気を感じ取る目的で訪問する、②公開資料⁴⁾から東成瀬村に関する情報を入手する、③村の行政担当者に対し調査目的を説明し了解と協力を得る、という段階を踏んだ。我々は900程度の世帯数であることから全戸を対象とする調査を行うことを決めていたので、第三段階における村長（村当局）の了解と協力を得ることはきわめて重要であつた。以下に村当局に提出した目的説明の抜粋を示すが、ここに我々の基本的な三つの観点が示されている。

東北地方などにおける積雪寒冷地では、恒常的に人口の少ない状況が続いております。これまでの研究調査によると、居住環境と過疎の間に有機的な関

係が存在することが明らかにされております。多くの地方自治体は、このような現状を変革するため種々の対策、即ち、残された豊かな自然を基礎にハード的要素を付加していく手法をとってきました。観光資源開発は典型的な手法ですが、これは両刃の刃的要素を持つと我々は見えております。では、どのような対策が中～長期的に望ましいものかですが、その解明のため以下のような調査研究を最初に行いたいと考えています。即ち、問題のはじめに立ちかえり

- ① 村民の方々が現在の居住環境をどのように感じておられるのか。
- ② どのような期待を自分の故郷に対し持っておられるのか。
- ③ どのように現在の暮らしを変えたいと望んでおられるのか。を明らかにしていきたいと考えております。

私たちの研究は上述した内容の調査を主に行うもので、村民の方々が郷土に誇りを持ち、将来への期待と自信を持って村の発展に寄与するという貴村の将来計画に貢献できることを望んでおります。

村当局から今回の調査が了解された後、調査方法及び協力体制づくりについて打ち合わせを行った。その結果、①稲刈り最盛期が10月10日頃なので配布と回収はそれ以前とする、②配布を村の広報と一緒にすることで行政協力員の協力を得る、③回収を郵送ではなく研究担当者らが各戸を訪問し行う、④訪問回収日に村当局が広報活動を行う、など具体的計画が立てられた。特に、回収率向上を目指すのであれば上記③④が重要であるとの示唆が担当者から行われ、行政協力員の協力による配布と研究担当者による回収を実施することになった。

3. アンケート調査の内容

アンケート調査の内容を最終的に決める前、東成瀬村総務課及び企画課の担当者に対するヒアリング（表）を実施した。ここで得た内容を要約すると、①村政100年の記念事業実施によって村民のアイデンティティーが再確認された、②ハウス栽培による夏秋トマトが市場性を得てきており、平良カブは生産量が限られているものの確実な売上有り、③村の面積のうち93%は国有林であるが林業は殆ど廃った状況にある、④年間4千万円程度の除排雪費用がかかっている、⑤防災無線は各戸毎に設置され行政側からの緊急時連絡体制は整っている。しかし、住

民からの緊急連絡や要求はNTT回線に依っている、⑥情報が限られた場所であるため村の広報を丁寧

に読んでいる人が多い、など明らかにされた。
 調査項目は経済企画庁が1972年から実施している国民生活選好度調査項目⁵⁾を参考に東成瀬村の実状を考慮しつつ、①居住していることに対する意識、②施設に対する意識、③産業・職業に対する意識、④生活環境に対する意識、⑤教育に対する意識、の5大項目を選び、更にそれぞれに小項目を設けることにした。この調査は、村民のもつ様々な分野のニーズや満足度など、個人の主観的な意識に関するものであり内容が豊富になることは避けられない。一般に質問事項の多い調査票を用いた場合、回答者が拒否反応を示す危険性が潜んでいる。このため、回答者が途中で放棄しないような調査票として我々の選んだ解決方法は質問事項をビジュアルな表現として提示するものである。この表現は5大項目のうち施設ならびに生活環境に関する質問で、前者は東成瀬村の地図を、後者は寒冷地における家屋暖房様式の図を用いた。こうして表紙を含む全体で6ページの調査票(図-2)が作成された。

表. 行政担当者へ行ったヒアリング項目

主 項 目	小 項 目
企画課の 考 え	①いくつかのイベントやレジャー施設がありますが、それらに対する期待や思うところを教えてください。 ②投資した資本に対して、どのくらい返ってきていますか。 ③現在、着実に売り上げの上がっているものはなんですか。 ④将来を見通して、どのように村全体の生計をたてていけばよいとお考えですか。 ⑤普段、村民が使う交通手段は何ですか。 ⑥アンケートに取り入れたほうがよいと考えることがありましたら教えてください。
教 育	①幼稚園・専門学校はありますか。また無い場合、それに変わるものは何ですか。 ②図書館・公民館等はありませんか。また無い場合、それに変わるものは何ですか。 ③景勝地・文化遺産はどのようなものがありますか。
生活環境	①除雪のシステムはどのような契約形態になっていますか。 ②下水処理はどのようになっていますか。 ③情報源になっているものは主に何ですか。 ④緊急時の連絡方法はどのようなシステムになっていますか。 ⑤応急活動体制はどのようになっていますか。

21世紀にむけた村づくりのための調査

調査のお願い

これからの村づくりを考えるうえで、行政の姿勢と村の住む方ひとりひとりの意見がどうあるのかということが大切であります。本アンケートでは、東成瀬村の全世帯の世帯主を対象に、村に対する誇りや希望、生活環境についてお尋ねします。ご協力よろしくお願いいたします。

調査に関する問い合わせ

〒011-8511
 国立秋田工業高等専門学校 環境都市工学科 泉 澄佳
 TEL/FAX 018-847-6074

アンケートの回答のしかた

- ・世帯主の方がお答えください。
- ・設問が選択肢の場合は該当する番号に○をし、回答欄のある場合は答えをお書きください。

性別、年齢、職業についてお答えください。

・性別 1.男 2.女

・年齢 ()才

・職業 1.農業 2.林業 3.漁業 4.鉱業 5.工業 6.販売業
 7.サービス業(ホテル、カフェ、旅館主など) 8.事務職 9.医療関係
 10.保安関係(警察、消防) 11.主婦(無職) 12.主婦(パートタイマー)
 13.無職

・勤務形態 1.自営業 2.勤め人 3.家族従業者 4.その他()

・職場は、村内ですか、村外ですか。 1.村内 2.村外

(1) 東成瀬村に住むことについて伺います

- ①あなたは村に何年お住まいですか。 (年)
- ②東成瀬村のほかの土地にもお住まいになったことはありますか。
 1.ある 2.ない
 ・1.あるとお答えになった方、どちらに何年住まわられていましたか。
 _____ 県 _____ 市・町・村 _____ 年
- ③なぜ、東成瀬村に住んでいるのですか。
 1.故郷だから 2.家があるから 3.仕事があるから 4.自然豊かな環境が好きだから
 5.都市のようにせわしくなく静かな所だから 6.村が好きだから、誇りがあるから
 7.楽しいイベントに参加できるから 8.スキー場やキャンプ場など遊べる所があるから
 9.昔からの知人がいて安心できるから 10.子どもを育てるのによい環境だから
 11.福祉サービスが充実しているから 12.ほかに行くところがないから
 13.その他()

(2) 東成瀬村の施設について伺います。

①次の地図中のうち、知っている施設の番号に○をつけてください。

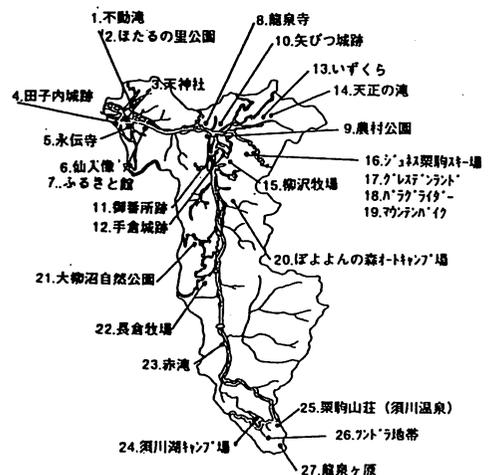


図-2. アンケート調査票

居住環境と村づくりのあり方に関する研究 (序報)

②地図中の行ったことのある施設の番号をお答えください。()

③村の施設の中で、好きなところをお答えください。

④次の特産品をご存じですか。知っているものに○を付けてください。

- 1.トマト 2.平良カブ 3.りんご 4.オータムポエム 5.またたび細工 6.こけし

⑤次のイベントをご存じですか。知っているものに○を付けてください。

- 1.ジュニア果樹祭 2.ジュニアカブ大会 3.焼石ビニール大会 4.釣り大会
- 5.秋田・岩手焼石岳親善登山 6.仙人修業 7.赤滝祭 8.歩け歩け大会
- 9.ジュニア果樹祭 10.産業文化祭

⑥-1 村の資源を利用して、村の活性化に役立つこととはどのようなことだと考えますか。
例: 山崎ツアー 2.特産品市 3.環境の買下ろしツアー 4.自然学習キャンプ 5.何もいらない

⑥-2 ⑥-1でお答えのことには何か必要だと思いますか

(3) 産業・職業に関する次の事柄についてどのように感じていますか。

- ・ やりがいのある仕事や自分に適した仕事ができる 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 失業の不安がなく働ける 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 収入が年々確実に増える 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 目標を満たすのに十分な貯蓄ができる 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ

- 3 -

(4) 生活に関することをお伺いします。

①情報 (広報、新聞、インターネットなど) に関して伺います

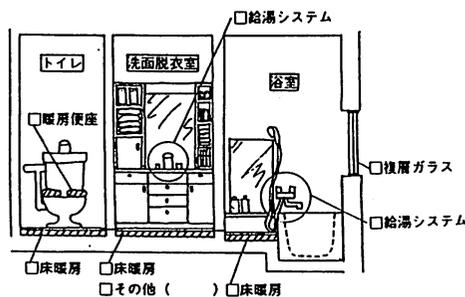
- ・ 生活に関する情報を得やすいですか 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 生活や流行に関する情報を得る手段としてどのようなものがあればよいですか。
- 1.ケーブルテレビ 2.機関誌 3.防災無線を活用する 4.その他 ()

②社会的生活について伺います

- ・ 税の負担が公平であると感じますか 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 老後に十分な年金が得られる感じますか 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 税金や法律問題などの相談はどこでしますか
- 1.県消費者センター 2.村役場 3.家族・親戚 4.知人 5.その他 ()

③生活環境に関して伺います

- ・ ゴミはどのように処理していますか
- 1.村の回収日にだしている 2.自宅焼却処理 3.その他 ()
- ・ 下水はどのように処理していますか
- 1.自宅浄化槽を設けている 2.未処理のまま流している 3.その他 ()
- ・ トイレは、どのような形態ですか
- 1.簡易水洗トイレ 2.汲み取り式
- ・ 家の修理や掃除などの手入れは、定期的に行えていますか
- 1.はい 2.いいえ
- ・ 寒さに対する対策をとっているものはどれですか。次の絵の中に○をつけてください。



- 4 -

④子育て環境、福祉について伺います

- ・ 子育てに関する相談はどこでしますか
- 1.県の窓口 2.村役場 3.家族・親戚 4.知人 5.その他 ()
- ・ 安心して子どもを遊ばせる所がありますか 1.はい 2.いいえ
- ・ 子どもや老人でも車に脅かされず道を歩けると感じますか 1.はい 2.いいえ
- ・ 障害をもつ高齢者に対する福祉サービスが充実していますか 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ ホームヘルパーなどのサービスを受けやすいですか 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 住宅改善や介護などの相談はどこでしますか
- 1.県の窓口 2.村役場 3.家族・親戚 4.知人 5.その他 ()

⑤消費生活について伺います

- ・ 品揃えの豊富な店が近くにありますか 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 商品への不満や苦情について相談はどこでしますか
- 1.県の窓口 2.村役場 3.家族・親戚 4.知人 5.その他 ()

⑥コミュニティに関する次の事柄についてどう思いますか

- ・ 村のセンターや集会所などが自由に使える 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 公園や運動施設、グラウンドなどが利用しやすい 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 住民の要望や意見が村の政治に十分取り入れられている 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 地域や村の行事が盛んで参加者も多い 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 自分の住んでいる地域、村をよくする活動ができる時間や機会がある 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ

⑦医療に関することや次の事柄についてどう思いますか

- ・ 病気の予防や健康の相談、指導が容易に受けられる 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 適切な診療や治療を受けられる 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 費用を心配せずに診療を受けられる 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ

⑧防災の備えについて伺います

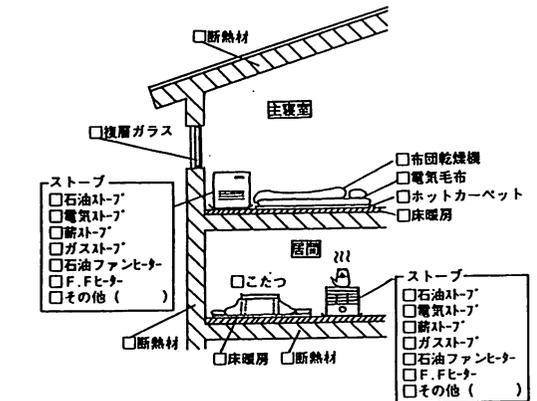
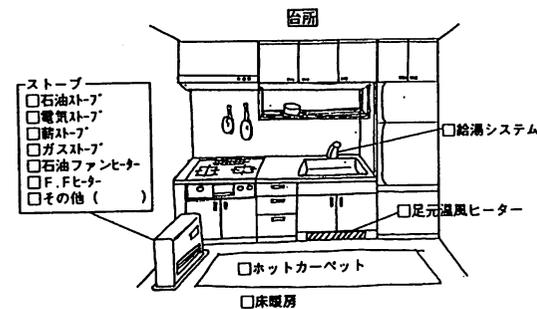
- ・ 家庭内における大震災、火災、地震などへの対策をしている 1.はい 2.いいえ
- ・ 避難場所を把握している 1.はい 2.いいえ
- ・ 避難のための道具を揃えている 1.はい 2.いいえ
- ・ 家具が倒れないように固定等をしている 1.はい 2.いいえ

(5) 教育に関することや次の事柄についてどう思いますか

- ・ 小、中学校で子どもの能力をのびせる教育が受けられる 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ ひとりでも勉強できる施設 (例: 図書館) がある 1.はい 2.いいえ
- ・ 生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられる場がある 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ
- ・ 文化遺産や史跡がよく知られている 1.はい 2.どちらでもない 3.いいえ

- 6 -

Copy right 1998 Izumi



- 5 -

4. おわりに

アンケート調査票は1998年9月20日、東成瀬村行政協力員の協力を得て全戸に配布され、10月3日から5日迄に4名の協力者を得て訪問の上回収された。なお、不在など回収できなかった世帯に関し、回収率向上を図るため郵送依頼も併用した。11月11日現在、回収された調査票は455通、回収率50.1%である。村の行政担当者によると今度の回収率は良好なものであり、初期段階の目的であるアンケート調査に対して好意的に回答を得ること、は達成されたと見るべきであろう。なお、調査内容に関する検討は次報で明らかにしたい。

最後に、今回の調査に当たり東成瀬村役場総務課の備前博和さん、企画課の高橋弘克さん及び佐々木あや子さんには企画段階から相談にのっていただき、調査票の配布と回収に対しても多大の協力をいただきました。東成瀬村行政協力員の方々には広い担当地区内へ、アンケート調査票を配布していただきました。

調査票の回収に当たり(有)地震対策産業の佐藤正篤

さんには有益な助言と献身的な協力をいただきました。また、早稲田大学大学院の星野聡基さん、本校環境都市工学科3年生の佐々木史歩さん及び高橋沙織さんには休日を利用した訪問回収に協力をいただきました。記して感謝の意を表します。

【参考文献】

1. 東成瀬村，村政要覧ひがしなるせ統計資料編，1998年3月
2. 秋田県企画調整部情報統計課，平成10年9月1日現在秋田県の人口と世帯（推計）速報 [統計情報ホームページ]，1998年10月
3. 東成瀬村総務課・企画課，私信と面談，1998年9月
4. 例えば，秋田県，秋田県勢要覧—平成9年度版一，（監）市町村勢編，1997年11月
5. 経済企画庁国民生活局，平成8年度国民生活選好度調査，参考資料（平成8年度国民生活選好度調査票），1998年2月